

連載第14回

ちいさなアリさんの気持ち



姫路市 大多和 清子

ちいさなアリさんは、両親・兄弟・親戚のアリさんたちと仲良く暮らしていました。

ある日のこと、大きなあめ玉を誰かが見つけ、みんながいっせいに群がりました。でもちいさなアリさんは、歩くのが遅く、大きなあめ玉はもうどこにもありませんでした。ちいさなアリさんはキョロキョロと辺りを見渡しました。「ここはどこなの？ おとうさん、おかあさん、みんなは？」。迷子になってしまいました。

とても不安になりました。ちいさなアリさんが一番怖いのは、人間の男の人が履いている大きな靴です。その音が近づいてくると一目散に逃げますが、運悪く下敷きになると大怪我をします。

ただじっとおかあさんが探しに来てくれるのを待っていました。そんなとき、タオルハンカチがちいさなアリさんの上に落ちてきました。すっぽりと隙間は全くありません。ちいさなアリさんは身動きもできません。必死でもがこうとしますが力尽きてしまいました。待つしかないのです。

どれだけ時間が経過したのか、ちいさなアリさんは女の子の声でもうろうとした意識がもどりました。「ママこんなところに落ちていたよ」と言ってハンカチを拾い上げました。

ようやく自由になれたちいさなアリさんは、みんなを探しに行きました。前方から両親やみんなが迎えに来ていました。「あなたのあめを残してあるわよ」と

優しいおかあさんの声に涙しながら帰って行きました。

「ちいさなアリさんの気持ち」は私の気持ちと同じです。

ある年の冬はとても寒さが厳しく、エアコンをつけていても寒さを感じました。
秋から冬にかけて、上半身の掛け物は寒さに応じて1枚、2枚と増えていきます。

ALSを発症して2年経過した冬、軽いはずの羽毛布団がとても重く感じたのです。
特に上半身が重苦しく感じました。

のちにスタッフからALSの患者さんが布団が重いと saying いたことを聞きました。元気な人には理解できないでしょう。

掛け物は薄くて暖かいものを5枚ほど、まるで十二単衣のように掛けていました。

なぜ十二単衣のように見える？
それは、上半身の掛け物すべてに、気切部分をVカットにしてあります(夫の手作りです)。その様
は、まるで十二単衣のようなのです。

寒さを防ぐため毛布を掛けることにしました。真ん中を真っ二つに裁断して上半身・下半身用に
。

気切部分をVカットにして掛けてもらいました。

左手親指は、チャットを打つために周囲3cmはストロークを広くするように開けています。

あるとき、その毛布をスッポリと掛けられたのです。
左手親指の上は一分の隙間もなく掛けられていました。動かそうとしてもピッタリ貼りついているよう
動きませんでした。そうしていると軽いはずの毛布が重く圧迫感を覚え、次第に痛みと痺れがやってき
たのです。

やがて時間が過ぎスタッフがかかったとき、解放されました。

水を得たさかなさんの気持ち

港には漁を終えた船が帰ってきました。

箱に入れられた、たくさんのさかなたちが陸にあげられました。

その中の1尾が勢いよく陸に飛び跳ねていきました。

運よく草むらに落ちました。もしコンクリートの上に落ちていたら大怪我をしていたかもしれません。

さかなさんは自分のいる所が海から随分離れていることに気付きました。
せめて少しでも海に近づこうとシッポをバタバタしましたが動けば動くほど、お腹に傷がつき力が消耗するだけでした。

せめて近くに水溜りでもあれば。せめて
雨でも降れば。



さかなさんは思いま した。

海から陸にあげられた仲間は どうしているのだろうか。
今頃きれいな箱に詰められトラックの中だろうか。それとも、どこかの店の冷蔵庫の中だろうか。
。

さかなさんはグッタリ していました。 目もうつろになってきました。

目の前に長靴を履いたおじさんがやって来ました。

「どうやらおまえさんは飛んできたんだな。よくあることだよ」と言いながら、さかなさんのお腹を見て、

「おまえさんは運が良かったな。この程度の傷なら大丈夫さ」とさかなさんのシッポをつかみ、海の
ほうへ歩き出しました。

海へ着いて、そっと海水に入るとバタバタしているさかなさんを見て、「もう大丈夫だよ」と言
いながら、さかなさんを放しました。「元気でな～」

さかなさんの気持ちは私の気持ちと同じです。

チャットを打つためにはベストな手の置き方があります。

左手のクッションの上にタオルハンカチを三つ折りにした上に置くのですが

。

そのとき、親指はハンカチの外の空間におくのがベストです。

なぜなら

親指をタオルハンカチの上に他の指と一緒におくと

ピッタリ密着しているので動きが悪く、スイッチにうまくあたりません。

空間におくと、まるで水を得た魚のように動きが軽やかになります。(可動域が広がります)



親指の下は空間にしています

ちいさなアリさんやさかなさんの気持ちが私の思いと重なったのです。

取るに足りない些細なことですが、私にとってはとても大切なことなのです。

生き物をたとえにして私の気持ちを伝えたかったのです。